

2021 年 10 月 29 日
@Webex

SAWG3 第 3 回全体会合議事録

日時：2021 年 10 月 29 日（金）13:30-15:10

場所：オンライン（Webex）

出席者：19 名（敬称略）

主 査：山根（JAEA）

副主査：村松（都市大）

幹 事：天野（JAEA）、小玉（JNFL）

委 員：相澤（東北大）、浅沼（東海大）、江藤（三菱総研）、大野（JAEA）、
加藤（電中研）、京（TEPSYS）、鈴木（長岡技大）、関口（電中研）、
中嶋（MRA）、藤原（TEPSYS）、松岡（UI 技研）、吉田(一)（JAEA）、
吉田(尚)（JAEA）、吉田(涼)（JAEA）、渡邊（JAEA）

配布資料

4-1. 20211029_AESJ_SAWGIII_B&Dsubwg_Day4

議題

1. 蒸発乾固の章立てについて

議事及び決定事項：

1. 蒸発乾固の章立てについて

天野（JAEA）より、配布資料 4-1 を用いて、蒸発乾固事故について報告書の章立て案の報告がなされた。

議論：

- ・ 報告書の章立てについて。リスク評価の項目が入っていないが、やらないつもりか？
⇒「蒸発乾固事故シナリオの解析事例」の項目にリスク評価を含んでも良いと思う。
- ・ それぞれの物理化学現象すべてについて網羅的にリスク評価するのは無理ではないか？
⇒最初から「できない」というのはいかなものか？
⇒まずは蒸発乾固サブ Gr でリスク評価も含めてまとめ方を検討してみて、結果どうだったかを後から共有する流れでいいのではないか。

⇒賛成多数。

- ・ どのように報告書をまとめていくかという共通認識ができていないのではないか？
という共通認識に基づいて、必要な人材を WG に招き入れる必要があるのではない
か？

⇒基本は今いるメンバーでやれることをやっていく。とりまとめの最中で、各サブ Gr
の判断で必要に応じて人材を追加する姿勢でいいのではないか。まずサブ Gr で各々
検討を進めて、できあがったものを全体会合で議論するという方針でいいのでは
ないか。

- ・ 影響の評価は既設のサブ Gr で行い、頻度を評価するサブ Gr は新設してはどうか？

⇒頻度を評価するための事故シナリオは、既設のサブ Gr で議論したほうがいいの
ではないか。

⇒頻度評価のベースになるものは機器の故障率等、ある程度汎用的なデータなのでは
ないか。

- ・ 議論を進めるためにはどこかのサブ Gr で進め方の例を示す必要がある。例えば臨
界サブ Gr でどうか？

⇒小玉さん中心に検討中の動きがあったと思う。それを紹介してはどうか。

- ・ 地震とシナリオと頻度で 3 つ合わせたサブ Gr でどうか。

- ・ 幹事会議事メモに「事故シナリオをどのように探索して選定したのかはスコープ外」
とあるが、それでいいのか？

⇒適合審査などでシナリオが固まりつつある部分なので、そういう部分を否定して
までゼロからシナリオ構築する必要はないのではないか、という意味。

- ・ 「臨界事故では地震 PRA は関係しない」のは何故か？

⇒地震で機器が止まって、廃液濃縮が進み、臨界に至る可能性はゼロではない。しか
し、非常に長い時間がかかる現象なので、通常の事故シナリオでは考慮されていな
い。

- ・ 炉の PRA でやっているような全体像を用意し、どこに注力するかをはっきりさせる
必要があるのではないか？

⇒フェーズ 3 から入ってきた方もいるので、フェーズ 1、2 の議論を再確認したほう
がいいのではないか。それで解決するようにも思う。

⇒いずれにせよ、叩き台とする何かしらの資料が必要だと思う。

⇒いつまでに資料を用意するかは幹事会で決める。

決定事項の確認：

地震シナリオ頻度のサブ Gr をつくる→異論なし。

幹事会の議事メモを共有する→異論なし。ただし、決定事項としてではなく、全体会合
への提案として。

次回会合：

議題を明確にしたのち、改めて日程調整を行う。

以上